



 Be the best **SPICE!**

証券コード：4406

株主の皆様へ

第152期 中間報告書

2023年4月1日～2023年9月30日

 **新日本理化株式会社**
New Japan Chemical Co., Ltd.



Be the best **SPICE!**





燃料・資材価格の高騰が収益を押し下げる状況にあるものの、サステナビリティを核にした事業ポートフォリオ改革を果敢に進めてまいります。

代表取締役 社長執行役員 三浦芳樹

経営理念

私たち新日本理化グループは、もの創りを通して広く社会の発展に貢献します。

Vision2030 ～2030年のありたい姿～



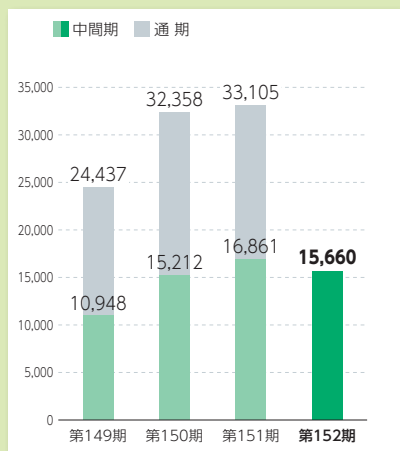
～心躍る極上のスパイスになる～

キラリと光る唯一無二の個性をもった素材のスパイスで、世界をより、健やかで豊かなものに、毎日をもっと、心ときめくものに。

財務ハイライト（連結）

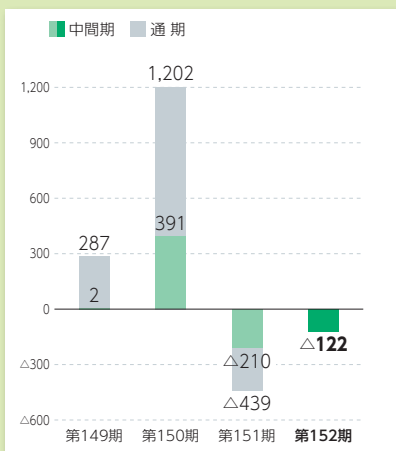
●売上高

(百万円)



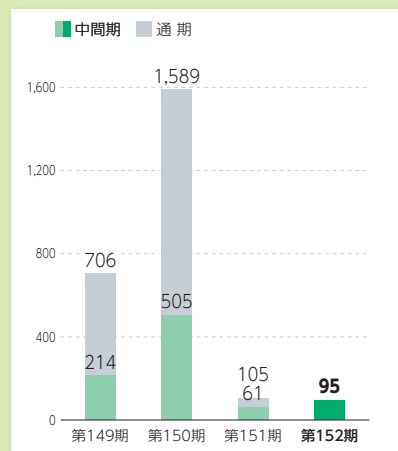
●営業利益又は営業損失(△)

(百万円)



●経常利益

(百万円)



事業の概況

株主の皆様におかれましては、平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

ここに当社第152期第2四半期(2023年4月1日から2023年9月30日まで)における概要をご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、米国経済が個人消費の下支えにより堅調に推移したものの、中国経済が不動産市場の低迷と輸出減少に伴い低調となるなど、国や地域によりばらつきが大きく、全体としては減速傾向にありました。一方、国内経済は外需低迷による輸出不振や物価上昇による消費下押し要因はあったものの、個人およびインバウンド消費の動向が上向くなど緩やかな回復傾向にありました。

このような環境のなか、当社グループにおいては、自動車産業の堅調な推移やインバウンド需要を中心とした化粧品業界の需要増などの好要因があったものの、欧州経済や中国経済の停滞による輸出不振や可塑剤の海外市況下落による価格競争力の低下などの影響が大きく、販売数量が落ち込みました。収益面においても、燃料価格の高止まりによる採算性の悪化や資材価格の高騰による設備保全コストの増加等により、厳しい事業運営を強いられました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における当社グループの売上高は、156億6千万円(前年同四半期比7.1%減)となり、損益面では、営

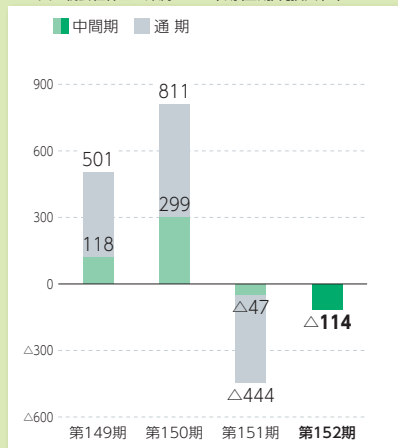
業損失1億2千2百万円(前年同四半期は2億1千万円の損失)、経常利益9千5百万円(前年同四半期比55.9%増)、親会社株主に帰属する四半期純損失1億1千4百万円(前年同四半期は4千7百万円の損失)となりました。

当社グループは、中期経営計画(2022年3月期~2026年3月期)に基づき、サステナブル経営の実現に向けた事業構造の改革を推進しております。不採算事業の整理・立直しを進めるとともに、環境負荷の低減を可能にする製品やバイオマス由来など環境価値の高い製品をはじめとする新規事業にリソースを重点配分いたします。今年6月には原料調達難およびコスト競争力低下を背景にステアリン酸の生産を停止しておりますが、今後も製造拠点の集約や製品ラインアップの見直しなどの合理化を加速させてまいります。一方、新規事業育成の面では、環境課題解決に寄与するバイオマス由来の化粧品原料[リカナチュラ]を開発しました。相溶性と感触に優れた植物由来のエモリエント剤のほか、揮発性シリコンの代替素材として拡販に注力してまいります。

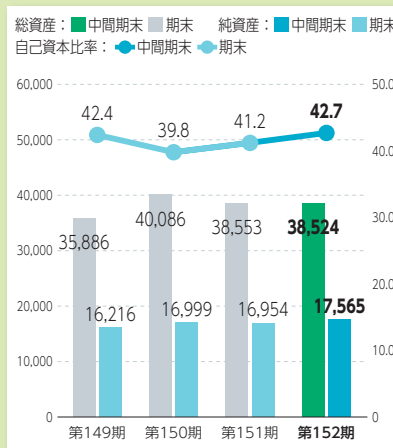
なお、中間配当につきましては、業績および財務状況、今後の経済情勢等を総合的に勘案し、見送りとさせていただきます。ご了承賜りますようお願い申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後とも末永くご支援賜りますようお願い申し上げます。

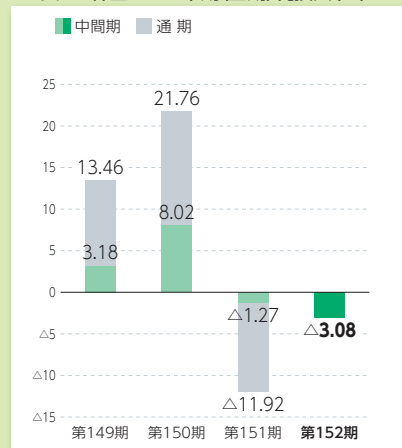
● 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益
又は親会社株主に帰属する四半期(当期)純損失(△)(百万円)



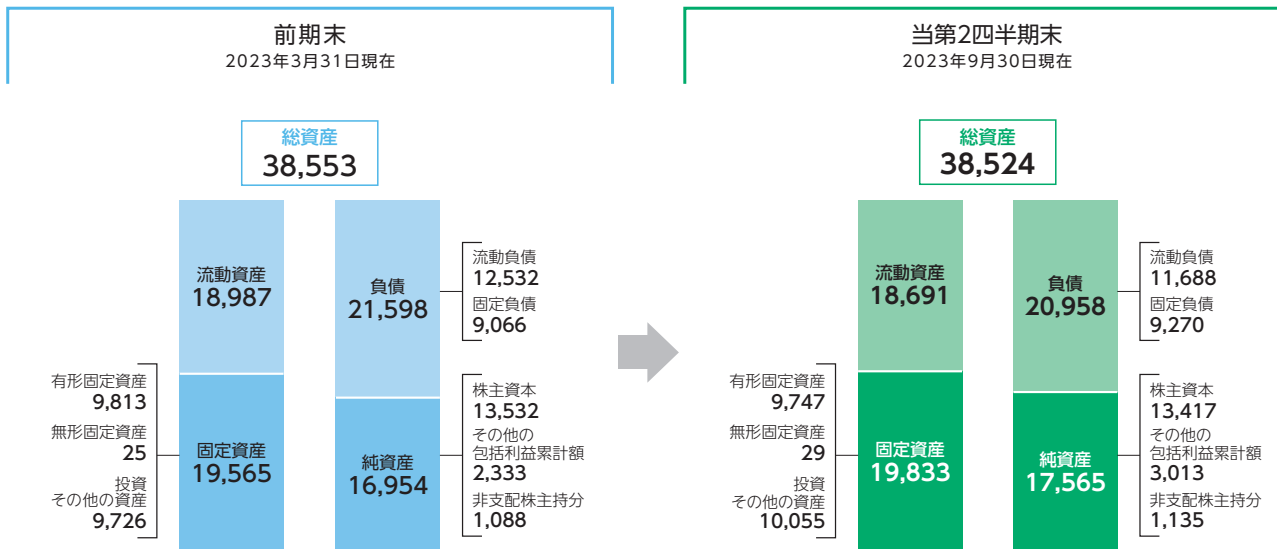
● 総資産・純資産・自己資本比率 (百万円・%)



● 1株当たり四半期(当期)純利益
又は1株当たり四半期(当期)純損失(△)(円)

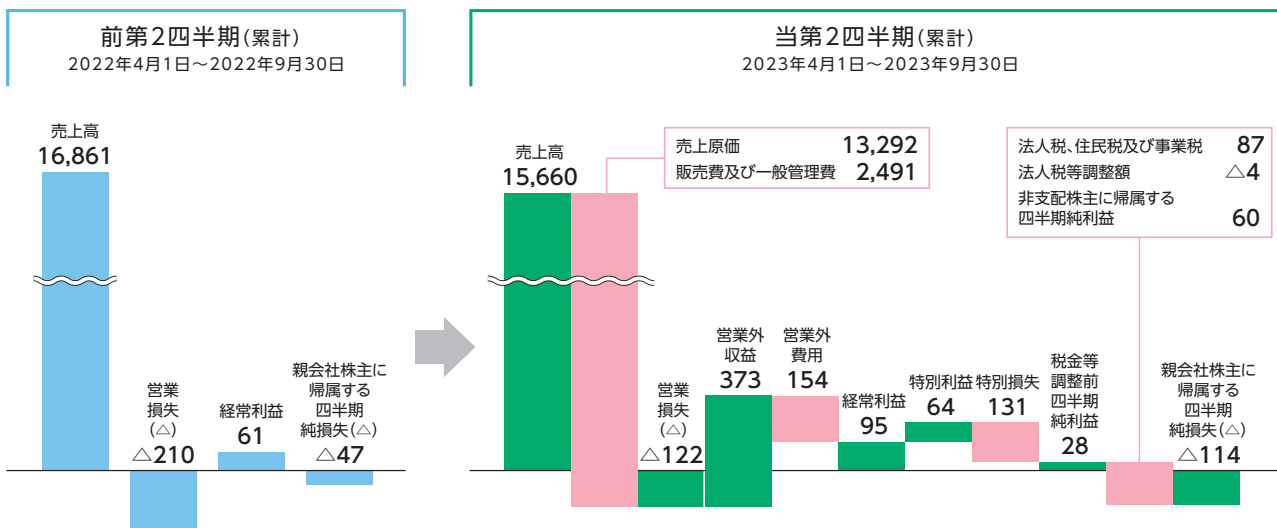


● 四半期連結貸借対照表の概要 (単位：百万円)



(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

● 四半期連結損益計算書の概要 (単位：百万円)



(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

当社の事業内容



主要製品の概況

オレオケミカル

主力のトイレットリー向け界面活性剤は、インバウンド需要の回復により堅調に推移しました。なお、今年6月、原料調達難を背景にステアリン酸の生産を停止しました。

可塑剤

海外市況の下落に伴う価格競争力の低下により輸出が大幅に落ち込みました。国内需要も低調だったものの、前年度のボトルネックであった原料調達難が解消したため、数量・売上高ともに前年並みとなりました。

合成樹脂原料

自動車生産の回復に伴い自動車塗料向け製品が堅調推移となった一方、半導体材料の需要回復の動きが鈍かったため、電子材料向け製品は数量・売上高ともに前年を下回りました。

機能性化学品

日用品雑貨などのポリオレフィン樹脂成形物向け樹脂添加剤は、ポリオレフィン需要の低下が影響し、数量・売上高ともに前年を下回りました。

TOPICS-1 「サステナブルマテリアル展」に出展しました

2023年10月4日(水)～6日(金)に、幕張メッセで開催された「第3回サステナブルマテリアル展」(主催:RX Japan株式会社)に出展しました。

この展示会は、バイオマス由来材料やリサイクル材料、軽量化・長寿命化素材などを紹介する、世界最大規模のサステナブルマテリアルの専門展です。

当社は、パーム油・パーム核油など天然油脂由来のアルコールやその誘導体をはじめ、バイオマス原料を用いながら従来の石化由来品と同等以上の性能を発揮する可塑剤やエステル油、さらには樹脂成形時の消費電力を低減する結晶化促進剤など、サステナブル社会の実現に貢献する多様な製品・技術を展示し、多くのお客様にお越しいただきました。

主な出展内容

- バイオマス由来のアルコール「コノール」「リカコール」
- バイオマス可塑剤「グリーンサイザー」
- バイオマス由来エステル油
- 化粧品向けの油性剤「リカナチュラ」
- ポリオレフィン樹脂の結晶化促進剤「RIKACRYSTA」



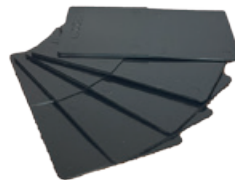
TOPICS-2 「京都府3R技術開発等支援補助金」に採択されました

当社が提案した「添加剤を用いた廃プラスチックのマテリアルリサイクルによる減量化促進」が「2022年度京都府3R技術開発等支援補助金(研究・技術開発等分野)」に採択されました。

本補助金は、一般社団法人京都府産業廃棄物3R支援センターが産業廃棄物の3R促進のための研究開発、施設整備等に対して交付するものです。

当社は、ポリオレフィン系樹脂向け結晶化促進剤「RIKACRYSTA」を用いた廃プラスチックのマテリアルリサイクルの研究・技術開発について提案を行い、補助金を活用して廃プラスチックの評価に適した押出機および評価用の金型を新たに導入しました。これらを用いて「RIKACRYSTA」の効能評価を行った結果、廃プラスチックに対しても結晶化促進機能を発揮することが確認されました。

今後は、マテリアルリサイクルにおいて課題とされているリサイクルプラスチックの成形不良を改善する添加剤の製品化も視野に、更なる研究開発を進めていきます。



▲廃プラスチックからの成形物



▲押出機

会社概要

● 会社概要 (2023年9月30日現在)

社名	新日本理化学株式会社
本社所在地	大阪市中央区備後町二丁目1番8号 備後町野村ビル
設立	1919 (大正8) 年11月10日
資本金	5,660,863,449円
従業員数	426名 (連結)
営業所	大阪 (本社)、東京
工場	京都、徳島、川崎、堺
研究所	京都

● 重要な子会社および関連会社 (2023年9月30日現在)

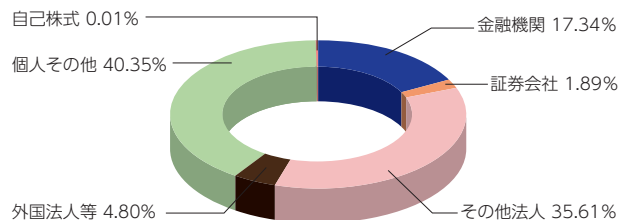
連結子会社	日新理化学株式会社 / アルベス株式会社
	日東化成工業株式会社 / NJC Korea Co., Ltd.
持分法適用会社	Edenor Oleochemicals Rika (M) Sdn.Bhd. 台湾新日化股份有限公司

株式の情報

● 株式の状況 (2023年9月30日現在)

発行可能株式総数	150,000,000株
発行済株式の総数	37,286,906株 (うち自己株式3,479株)
株主数	10,755名

株式分布状況 (所有者別)



● 取締役 (2023年9月30日現在)

代表取締役 会長執行役員	藤本万太郎
代表取締役 社長執行役員	三浦芳樹 新事業企画室長
取締役 執行役員	盛田賀容子 営業本部長
取締役 執行役員	中川真二 社長補佐
社外取締役	松本恵司
社外取締役	柳瀬英喜
取締役 (常勤監査等委員)	川原康行
社外取締役 (監査等委員)	織田貴昭
社外取締役 (監査等委員)	竹林満浩

大株主 (上位10名)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社ワイエムシィ	3,534,900	9.48
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,868,500	5.01
株式会社りそな銀行	1,860,533	4.99
株式会社日本カストディ銀行(信託口4)	1,228,400	3.29
フクダ電子株式会社	1,199,000	3.22
日油株式会社	922,875	2.48
野村貿易株式会社	850,100	2.28
ダイソーケミカル株式会社	758,900	2.04
三井住友海上火災保険株式会社	661,600	1.77
KHネオケム株式会社	609,000	1.63

(注) 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日 期末配当 3月31日 中間配当 9月30日
公告方法	臨時に必要な場合は、その都度公告いたします。 電子公告とし、当社ホームページ (https://www.nj-chem.co.jp/) に掲載いたします。 ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
単元株式数	100株
上場証券取引所	東京証券取引所 スタンダード市場
証券コード	4406
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777 (通話料無料) [受付時間 9:00~17:00 (土、日、祝祭日、年末年始を除く)] ホームページ https://www.tr.mufg.jp/daikou/

◆株式に関するお手続きについて

お手続き内容		お問い合わせ窓口
<ul style="list-style-type: none"> ・氏名、住所の変更 ・単元未満株式の買取・買増請求 ・配当金の振込先指定 ・その他株式に関するお問い合わせ 	証券会社の口座で株式をご所有の株主様	お取引の証券会社
	特別口座で株式をご所有の株主様	三菱UFJ信託銀行株式会社
<ul style="list-style-type: none"> ・未受領の配当金に関するお問い合わせ ・郵便物に関するお問い合わせおよび再送付のご依頼 	すべての株主様	三菱UFJ信託銀行株式会社

株主の皆さまの 声をお聞かせください

コエキク

当社は、株主の皆さまの声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。
お手数ではありますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスキー入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。

<https://koekiku.jp> アクセスキー

スマートフォンから
カメラ機能で
QRコードを読み取り

QRコードは株式会社プロネクサスの登録商標です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝を進呈させていただきます。

本アンケートは、株式会社プロネクサスの提供する「コエキク」サービスにより実施いたします。
アンケートのお問い合わせ「コエキク事務局」✉ koekiku@pronexus.co.jp



見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

